
記憶

祢禰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶

【Nコード】

N1909B

【作者名】

祢禰

【あらすじ】

心の中のポツカリ間に戸惑う日々。楽しくない学校。「心のポツカリ間を埋めるため、ウチは何をすればいい・・・??」彼女は動き出す、心の穴を埋める為に・・・。

記憶・・・1

独りは嫌い。

あの頃のことを、思い出してしまっから。

でも今、ウチは独りじゃない。

みんなが居る・・・

だけど、このぽっかりとあいた心の中は何なのかな・・・？

記憶・・・1

【く林檎の赤

水風船が割れた

こぼれ落ちた水に紛れ泣いた・・・く】

耳元でウチの大好きな曲が流れる。

携帯からだ。

毎朝、この曲を聞くと（ああ、朝だ。）と思う。

外はまだ薄暗い。　　ウチは

「眠い・・・」

と目をこすりながら、布団から起き上がった。

ブルブルッ…

体中が震えた。

今は冬。ここは大阪だけど、寒いには変わりない。寝起きだから、良い眠気ざましになるのだけど……

「寒っ…、最近また寒なつたわぁ…」

ウチはそう呟きながら、また布団に潜った。ああ、二度寝をしてしまいそう……。だけど暖かい毛布にくるまり、長い時間また眠った。パチッ

また目が覚めた、寒さなのだろうか？せっかく眠ったのに、と思い携帯を見た。

「げえッ！！もう6時50分やんッ！」

ウチは6時に起きるつもりだったのに！と叫ぶと、スクッと起き上がり、制服に着替える。ああ、もう面倒くさいとつぶやきながら……

3

……ドタバタ……

「おはよ〜!!」

「あ、あかね……。オハヨ。」

軽くママと会話を交わし、洗面所へ向かう。うん、まだ髪は大丈夫かな？と髪をいじりながら言う。いつも髪がピンピンに跳ねたりするのだ。それに対して綺麗だったから今日はご機嫌……

コトッ

「はい。」

「あ、ママ・・・有難う!」

ママが紅茶をいれてウチに渡す。ママがいれる紅茶は、意外と美味しい。

パチン。

「ご馳走様・・・」

「あ、もう食べへんの?」

「もうお腹いっぱいやもん。」

この頃ウチ、朝食欲無いねん・・・」

そう良いながら椅子から立ち上がる。

もうお腹いっぱいやし・・・最悪かも。と思いながらもう一度洗面所へ向かった。

「行つてきまーす!」

私は叫んでドアを閉める。

ふあ〜とあくびをする、寝たり無いのかな・・・と思いながら歩き始める。

カンカンカンカン・・・

リズムカルに階段をおりる。カン、となるのは少し気になるけどね。

「よし、今日も1日頑張るか！」

パチ、と頬を叩いた。頬を叩かないと、何故か気合が入らないのだ。

．．．ザワザワ．．．

さすが学校、もの凄く煩い。無駄な声如山ほど聞こえてくる．．．
コトン．．．

靴箱から上靴を出す。この教室は三階．．．いい加減こんなに往復すると、嫌でも慣れる。

こんなの慣れたくないな．．．と思い、教室に入る。

．．．ザワザワ．．．

本当ににぎやかな教室、といつも思う。友達の悪口、好きな人のこと．．．耳をすませば聞こえてくる、聞かれたくない話はもう少し小さな声で話してほしい。

「あ、あつか姉〜！おっはよ」

「あ、夏．．．おはよう！」

笑顔で挨拶して疲れる．．．とか思いつつ、返事をするうち。まあ友達を大切に、だよ。

「明日休みやなあ!!!」

「え、まじ!?!」

「?あか姉、知らんかったん???」

ああすっかり忘れてた、明日は休みなんだ。だからみんな今日張り切ってるんだな、と思った。まったく...単純だなあ。

...キーンコーンカーンコーン...

「起立、礼、サヨウナラー」

「...サヨウナラー!」「...」

早くも学校が終わる。明後日は「子供祭り」とゆづりがあるから居残り。

言い出したやつは残ってやらないくせに...。ウチは体育館へ急いだ。

ウチの予感は的中。予想道理、言い出したやつ...あなとさやは

男子と喋っていた。作業もしないでお喋りか・目障りだなあ。
ただど後がうるさいので言わなかった。

.....

もう嫌だ、残らん！

そう心で叫び、立ち上がる。さつきからずっとこっちは作業をやっているのに、あなたとさやはケチまでつけてきた。
いい加減にしろ、となるだろう。

ウチは友達が先に帰ってしまったので、独りで帰った。

もうこんな生活嫌だった。

心のポツカリ間を埋めたかった・・・
どうすれば埋まる？何をすればいい？
この悲しい気持ちは・・・何？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1909b/>

記憶

2010年10月15日00時32分発行